



機械や AI では代替できない、感性やアイデアなど、社会人が新たな価値の創造力を育成するには？

複合型研究会名： アートイノベーション研究会

実施日・時間：

6月23日 18:15 ~ 20:00

実施（配信）方法：ZOOM

申し込み方法：

参加希望者は、(右の)QRコードをスキャンして、お申し込みください。

QRコードが使えない方は、tosa-lab@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp宛に

タイトルを「2021年度夏季ミニワークショップ」と記して、1) 氏名 2) 所属を記して6月22日までに、メールしてください。



AI(人工知能)はアートと真逆の位置にある技術と考えられがちであるが、AIも人の考え方や行動様式を変える力を持っていると思う。例えば、AIの登場で「頭の良さ」の基準が変わってきている。従来、頭の良さとは、物事を論理的に考えて解決し伝えられる能力であった。しかし、AIの登場により強力な論理的能力を持ったヘルパーが出現し、逆にAIで代替できない能力が人間に求められている。それは、直感やひらめき、イメージする力、創造性、感性、場の雰囲気を感じる能力といったものである。

詩で「黒い太陽」といった場合、そのイメージは創作者にかなり主観に依存する。答えがひとつではない場合、人間が行うのはAIが創出する様々な「黒い太陽」のイメージを、的確に選出し目的に合わせて仕上げるといことになるだろう。このようにAIを使いこなし、協調作業する場面が増えてくるのだ。



京都大学大学院総合生存学館
アートイノベーション産学共同講座
土佐尚子 特定教授
「生存のためのアート」 18:15-18:35



三菱電機株式会社
桑田宗晴 様
「感性のライティング研究」
18:35-18:50



AGC株式会社
新山聡 様
「Mirroriaの鏡像ARによる新たな表現」
18:50-19:00



凸版印刷株式会社
山田晃弘 様
「微小重力下の3次元物体測定」
19:00-19:10



京都大学大学院総合生存学館学生
玉井秀和 (大学院2年生)
演劇に関する研究



京都大学大学院総合生存学館
パンウネン 特定助教
助教の研究紹介



産学共同講座

Art Innovation